

もっと知ろう “陶”

19、道祖神

『道祖神』は路傍の神であり、私たちには馴染みの深い神様である。

旅の途中、いろいろな場所で「道祖神」と記した碑を見ることがあります。松尾芭蕉の「奥の細道」では旅に誘う神様として冒頭に登場します。旅にも様々な旅があり、旅の途中で出会う道祖神にはなんとなくロマンを、郷愁を感じます。

道祖神は、旅の安全を守る神様でもありますが、元々は中国の神で、道中の安全と道案内を務める神でした。日本の神話に登場する猿田彦（高天原への道案内）とは同じ役になります。その神が日本の農耕社会の中で、村境や峠の道端に祀られ、悪霊・邪悪・病魔などが入り込まぬよう境を守る神、通行を守る神、田畑を守る神となり「道祖神」と呼ばれるようになったのです。近世では旅の安全、交通安全の神として信仰されているようです。

陶の道祖神も中馬街道の往来が盛んなころ、窯関連の荷馬車の往来を、あるいは参詣講の旅人を、または遠く信州からの荷物を見守った事でしょう。

上手玉喜氏著の「陶町の石造物」に猿爪で1基、水上に6基、大川に1基の道祖神が載っていますが、大川十三塚のもの（塔身33cm）は発見できませんでした。残りの7基と吹越峠吉良見側のものを加え8基の道祖神が確認できましたのでその場所と写真を記載します。陶コミ通信では東町の確認結果（場所と写真）のみ記載しますが、それ以外の水上・大川の確認結果は「すえっこぼっけ」のホームページに記載しますので興味のある方はご覧ください。

大川十三塚のもの何処にあるかご存知の方は陶コミまで連絡くだされば幸いです。



② 東町領分立境
(田代への道)



① 吹越峠吉良見側
(中馬街道)

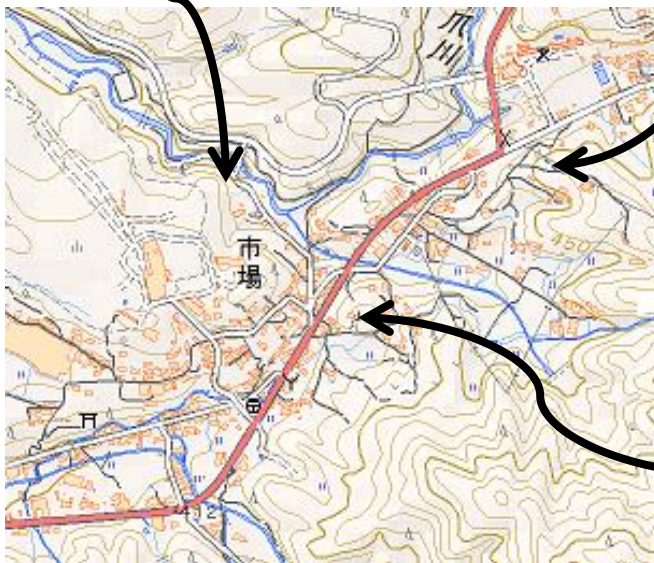
道祖神の確認結果（場所と写真） … 東町以外(1)



⑤水上馬渡し
(小滝道)



③水上関屋
(中馬街道)

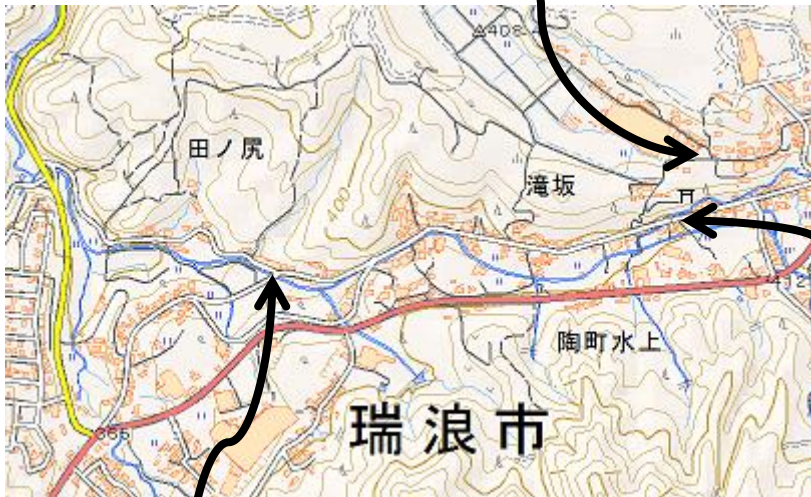


④水上不動堂
文字判別不能だが、諸状況から奥側の石碑が道祖神と思われる。

道祖神の確認結果（場所と写真） … 東町以外(2)



⑥水上市場平（中馬街道）
道標も兼ねていて嘉永 3 年
（1850 年）建立で陶最古の道祖
神か？



⑦水上神社前
（中馬街道？）
廻国供養塔と妙見菩薩と
共に社に入っている。



⑧水上田の尻
（中馬街道）
道標も兼ねていて全高 136
cmで陶最大の道祖神